

2017



三重県松阪市

ごあいさつ



平成29年4月1日より松阪市消防団長を拝命いたしました山川でございます。市民の皆さまには、日頃より消防団活動につきまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

松阪市消防団は、火災や風水害などから市民の皆さまの生命や身体、財産を守るため、日頃から各種訓練に励み複雑多様化する災害に対処できる技術と知識の習得に努め、災害発生時には常備消防と連携し、消火活動や救助活動に取り組んでおります。

また、平常時においても防災訓練、防火・防災意識の高揚のための広報活動、地域のお祭りやイベントの警戒など、地域での防災リーダーとしての役割も担っています。

私たち消防団員は、本業の仕事をもちながら災害出動などの消防団活動を行っており、家庭や職場の皆さまのご理解とご協力は不可欠であります。

近い将来発生が危惧されている南海トラフ巨大地震や近年の異常気象に集中豪雨や台風の大型化など自然災害のリスクが高まっており、市民の皆さまの消防団に対する期待はますます大きくなっていると感じています。

市民の皆さまの期待に応えるため、自分たちのまちは自分たちで守るとの自主自立の精神に基づき、消防団員一人一人が職務に誇りを持ち、皆さまから愛され、信頼される消防団を目指してまいりますので、変わらずのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

松阪市消防団統括団長 山川 良樹

まつ さか し 松 阪 市 の 概 要

<1> 位置と地勢

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に、南は多気郡、北は雲出川を隔てて津市に接しています。

地形は、西部一帯が台高山脈、高見山地、紀伊山地からなる山岳地帯、中央部は丘陵地で、東部一帯には伊勢平野が広がり、北部を雲出川、南部を櫛田川が流れています。



松阪市は後の三越の前身越後屋を江戸に開店させた三井グループ創始者の三井高利の生誕地であり、古くは商業の街として知られるとともに、「古事記伝」の執筆で著名な国学者本居宣長翁、「北海道の名付け親」松浦武四郎翁など優れた先人も多く輩出しています。

また名産の松阪牛は高級ブランド牛肉として、珍重されています。

<2> 気候

概ね東海型の気候区に属し、西部は寒暑の差がやや大きく内陸的な特性を持っています。年間平均気温は 14℃～16℃で、降水量は平野部で

は 1,500mm 程度ですが、山間部では 2,000～2,500mm とかなり多くなっています。

全般的には温暖でおだやかな気候となっています。

<3> 面積

東西 50Km、南北 37Km と東西に長く伸び、総面積で 623.66Km² を有し、三重県全体の約 10.8% を占めています。用途別にみると、耕地 76.80Km² (12.3%)、宅地 30.41Km² (4.9%)、山林 427.61Km² (68.6%) となっており山林の占める割合が高くなっています。

<4> 人口と世帯

平成 29 年 4 月 1 日現在の総人口は 165,918 人で、県全体の約 9% を占めています。

総世帯数は 72,596 世帯で、平成 2 年の 48,273 世帯に比べ 27 年間で約 1.5 倍の伸びを示しており、1 世帯当たりの人員は約 2.29 人となり、核家族化が進んでいます。

年少人口（0～14 歳）の割合は、昭和 50 年で 22.1%、平成 27 年は 13.1% となっており、また高齢化率（65 歳以上高齢化の比率）の現状をみると昭和 50 年では、10.8% でしたが、平成 27 年は 28.1% と、ますます少子高齢化の進行がみられます。

人口と世帯数の推移

（単位：人）

区 分	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	平成 29 年
総人口	163,131	164,504	168,976	168,017	163,863	165,918
世帯数	52,413	56,087	61,502	63,611	63,948	72,596
1 世帯当たりの人員	3.11	2.93	2.75	2.64	2.56	2.29

< 5 > 市の沿革

旧松阪市

明治22年

市町村制の実施により松阪町となる。

昭和8年 2月

市制施行により松阪市となる。

昭和23年12月

松江村、朝見村 編入。

昭和26年12月

伊勢寺村 編入。

昭和27年12月

機殿村 編入。

昭和29年10月

花岡町、東黒部村、西黒部村、港村、阿坂村、松ヶ崎村、松尾村 編入。

昭和30年 3月

宇気郷村袖原、飯福田、与原、後山 編入。

昭和30年 4月

漕代村、射和村、茅広江村、大石村 編入。

昭和32年10月

大河内村、櫛田村 編入。

旧嬉野町

明治22年

市町村制の実施により中郷村、豊地村、中川村、豊田村、中原村となり、小原、上小川、柚原、後山、飯福田、与原が宇気郷村となる。

昭和30年 3月

中郷村、豊地村、中川村、豊田村、中原村並びに宇気郷村大字小原、大字上小川の区域をもって嬉野町となる。

旧三雲町

明治22年

市町村制の実施により米ノ庄村・天白村・鵠村・小野江村が成立。

昭和30年 3月

4ヶ村が合併、三雲村として発足。

昭和61年 3月

町制施行により三雲町となる。

旧飯南町

明治22年

市町村制の実施により柿野村、粥見村が成立。

大正13年 1月

柿野村が町制施行により柿野町となる。

昭和8年 2月

粥見村が町制施行により粥見町となる。

昭和31年 8月

柿野町、粥見町が合併し飯南町となる。

旧飯高町

明治22年

市町村制の実施により宮前村、川俣村、森村、波瀬村の4ヶ村が発足。

昭和31年 8月

4ヶ村が合併し飯高町となる。

新松阪市

平成17年 1月 1日

松阪市、一志郡嬉野町、一志郡三雲町、飯南郡飯南町、飯南郡飯高町の5市町の合併により現松阪市となる。

平成27年 2月 1日

松阪市制施行10周年記念式典の開催。

<6> 消防団の沿革

旧松阪市消防団の沿革

寛政 6年	松阪に消防制度がはじめて布かれる。
明治29年 4月 1日	松阪消防組が編成される。
昭和14年 5月 1日	戦時体制となり、松阪市警防団と改称される。
昭和23年 8月 1日	消防組織法の施行により松阪市消防団として発足する。
昭和41年 8月 1日	現機構の23分団（432名）となる。（以前は28分団982名）
昭和42年 10月 1日	現機構の団員定数415名となる。
平成12年 7月13日	現機構の団員定数425名となる。
平成12年 8月20日	女性消防団員15名が誕生、さくら分団となる。

旧嬉野町消防団の沿革

昭和34年 3月26日	消防団条例施行による消防団設置規則で、6分団編成となる。
平成 8年 3月29日	嬉野町消防団設置規則改正により、団員定数250名となる。
平成 8年 4月 1日	女性消防団員20名が誕生、やまゆり分団となる。

旧三雲町消防団の沿革

昭和30年 3月21日	4ヶ村合併により、三雲村消防団発足。（団長以下305名、4分団）
昭和32年 3月30日	消防団条例制定。
昭和56年 2月 1日	消防団条例改正により団員定数265名となる。
昭和61年 4月 1日	町制施行に伴う名称変更のため三雲町消防団となる。

旧飯南町消防団の沿革

昭和31年 8月 1日	飯南町消防団発足。（団長以下237名、12分団）
昭和45年 3月16日	消防団条例改正により団員定数200名となる。
昭和48年 8月 4日	消防団区域規定改正により4分団となる。
平成 3年 4月 1日	女性消防団員20名が誕生、ひまわり分団となる。
	消防団条例改正により団員定数220名となる。

旧飯高町消防団の沿革

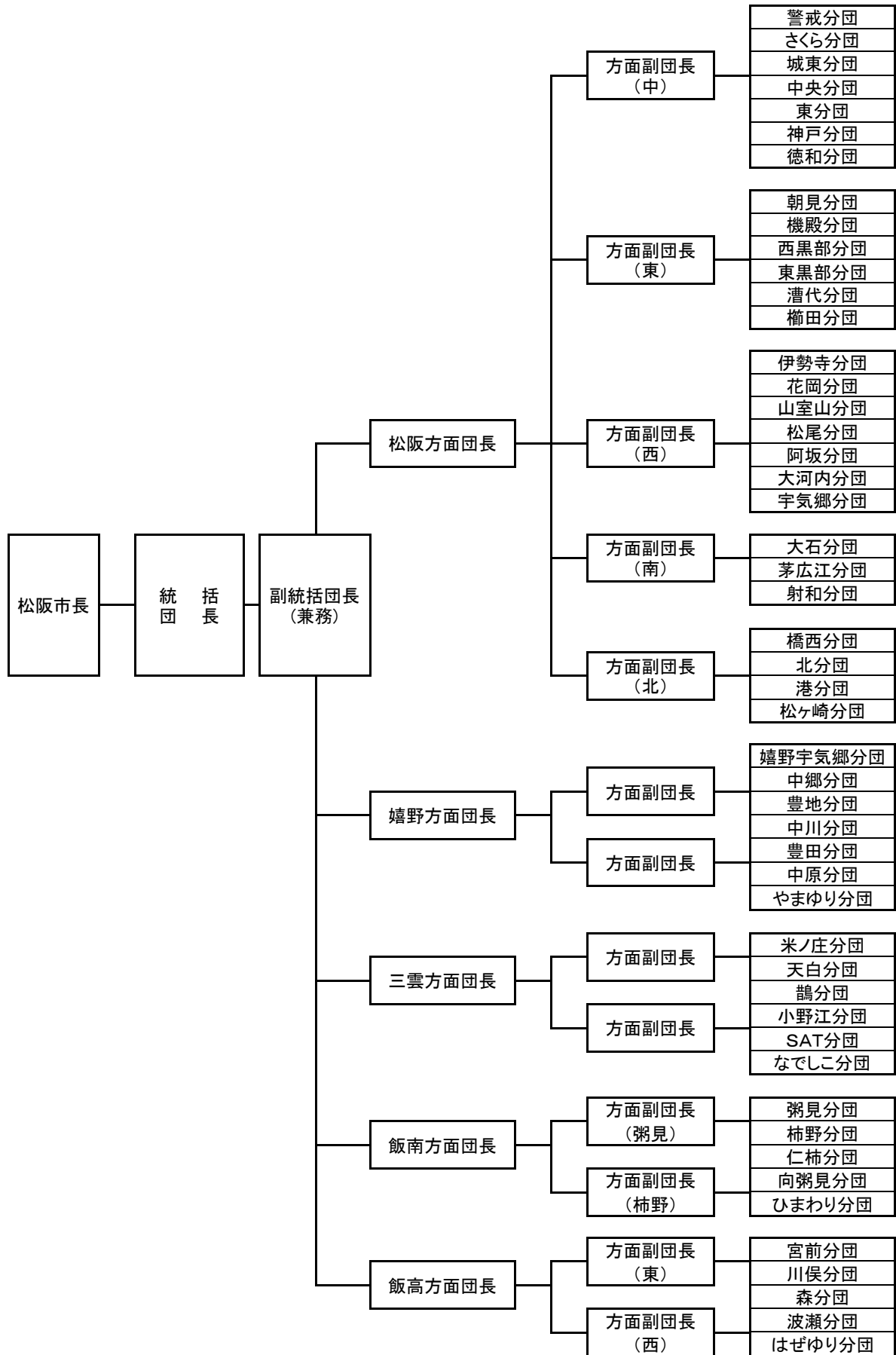
昭和31年 9月	町村合併により飯高町消防団として発足する。（団長以下370名）
昭和35年 4月	消防団条例改正により副団長を1名とし、団員定数360名となる。
昭和60年 3月	消防団条例改正により団員定数260名となる。
平成 2年 4月	女性消防団員6名が誕生、はぜゆり分団となる。
	消防団員定数260名のうち女性団員数20名とする。
平成 4年 4月	消防団設置規則の改正により副団長を2名とし、団長以下260名となる。

松阪市消防団（新）

平成17年	1月	1日	1市4町の合併により、旧松阪市・旧嬉野町・旧三雲町・旧飯南町・旧飯高町各消防団を統一し、松阪市消防団となる。
			団員定数 1,420 名。
平成17年	4月	1日	三雲方面団に女性消防団員 10 名入団、なでしこ分団となる。
平成17年	4月	17日	新松阪市消防団結団式挙行。 新基準活動服貸与開始。
平成17年	6月	9日	電子メールによる団幹部への災害連絡開始。
平成17年	12月	20日	全分団に消防団波携帯無線電話機配備。
平成18年	3月	20日	新基準盛夏服貸与開始。
平成18年	4月	1日	嬉野方面団の副団長を 1 名から 2 名とする。 組織改編により、松阪方面団に 3 分団（東分団（旧中央分団東町班）・神戸分団（旧神戸分団を徳和分団、神戸分団に分割増員）・花岡分団（旧花岡分団大黒田班を花岡分団に、同山室班を山室山分団に分割増員））1 班（橋西分団 2 班）を追加し、各分団団員定数を改正する。
平成19年	2月	21日	消防団員増員等の実績、消防庁長官より地域活動特別表彰枠での表彰を受ける。
平成19年	4月	1日	松阪市消防団協力事業所表示制度施行。
平成19年	9月	1日	団員定数 1,420 名の確保。
平成20年	3月	7日	日本消防協会 特別表彰「まとい」受章。
平成20年	3月	16日	特別表彰「まとい」受章記念 披露式挙行。
平成21年	2月	27日	消防・防災訓練センター 消防訓練塔竣工。
平成22年	8月	26日	総務省消防庁より「消防団救助資機材搭載型車両」を貸与される。
平成23年	4月	1日	消防団員の処遇改善を目的として、団員報酬を見直し、松阪市消防団条例の一部を改正する。
平成25年	2月	26日	日本消防協会 「優良消防団（表彰旗）」受章
平成26年	4月	1日	消防団員の処遇改善を目的として、退職報償金を見直し、松阪市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する。
平成26年	8月	29日	津波災害時の「松阪市消防団活動・安全管理マニュアル」を策定。
平成28年	8月	1日	松阪市消防団行方不明者搜索活動実施要領を策定。
平成29年	4月	1日	三雲方面団に SAT 分団が発足する。

< 7 > 松阪市消防団の組織

(団長以下5方面団 50分団 定数1,420名)



消防団の定数

平成 29 年 4 月 1 日現在

地区・分団 \ 区分	統 括 団 長	方 面 団 長	方 面 副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	合 計
昨年実績	1	5	13	49	49	69	151	1050	1387
今年実員	1	5	13	50	50	69	153	1057	1398

松 阪 方 面 団	本 部		1	1	5						7
	中 地 区	警 戒 分 団				1	1	1	2	11	16
		さくら分団				1	1	1	2	14	19
		城 東 分 団				1	1	1	1	13	17
		中 央 分 団				1	1	1	1	16	20
		東 分 団				1	1	1	1	10	14
		神 戸 分 団				1	1	1	1	12	16
		徳 和 分 団				1	1	1	1	12	16
	東 地 区	朝 見 分 団				1	1	1	1	15	19
		機 殿 分 団				1	1	1	1	13	17
		西黒部分団				1	1	1	1	14	18
		東黒部分団				1	1	1	1	11	15
		漕 代 分 団				1	1	1	1	14	18
		櫛 田 分 団				1	1	1	1	16	20
	西 地 区	伊勢寺分団				1	1	1	2	17	22
		花 岡 分 団				1	1	1	1	12	16
		山室山分団				1	1	1	1	12	16
		松 尾 分 団				1	1	1	2	15	20
		阿 坂 分 団				1	1	1	2	15	20
		大河内分団				1	1	1	3	20	26
		宇気郷分団				1	1	1	2	11	16
	南 地 区	大 石 分 団				1	1	1	2	17	22
		茅広江分団				1	1	1	2	14	19
		射 和 分 団				1	1	1	3	18	24
	北 地 区	橋 西 分 団				1	1	1	2	19	24
		北 分 団				1	1	1	2	16	21
		港 分 団				1	1	1	1	13	17
		松ヶ崎分団				1	1	1	2	14	19
	合 計		1	1	5	27	27	27	42	384	514

区分 地区・分団		方面 団長	方面 副団長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	合 計
嬉 野 方 面 団	本 部	1	2			1	2	38	44
	嬉野宇気郷分団			1	1	1	2	17	22
	中郷分団			1	1	1	2	22	27
	豊地分団			1	1	1	5	31	39
	中川分団			1	1	1	6	34	43
	豊田分団			1	1	1	5	34	42
	中原分団			1	1	1	3	35	41
	やまゆり分団			1	1	1	2	7	12
	合 計	1	2	7	7	8	27	218	270

三 雲 方 面 団	本 部	1	2						3
	米ノ庄分団			1	1	4	11	46	63
	天白分団			1	1	3	9	49	63
	鵜分団			1	1	3	5	36	46
	小野江分団			1	1	3	6	40	51
	SAT分団			1	1				2
	なでしこ分団			1	1	1	1	7	11
	合 計	1	2	6	6	14	32	178	239

飯 南 方 面 団	本 部	1	2					9	12
	粥見分団			1	1	2	6	52	62
	柿野分団			1	1	2	8	48	60
	仁柿分団			1	1	2	3	22	29
	向粥見分団			1	1	2	4	18	26
	ひまわり分団			1	1	1	1	5	9
	合 計	1	2	5	5	9	22	154	198

飯 高 方 面 団	本 部	1	2						3
	宮前分団			1	1	3	11	61	77
	川俣分団			1	1	3	10	28	43
	森分団			1	1	2	6	18	28
	波瀬分団			1	1	2	2	15	21
	はぜゆり分団			1	1	1	1	1	5
	合 計	1	2	5	5	11	30	123	177

運用中消防車両及びポンプ一覧
松阪方面団

平成 29 年 4 月 1 日現在

分団		区分	消防車両			小型動力ポンプ	
			積載車両	年式	種別	B-3級	台数
1	消防団本部		トヨタ	H 7 年 1 月	普通	シバウラ H 7	1
2	消防団本部		ホンダ	H 15 年 12 月	普通		
3	消防団本部 (総務省消防庁より借受)		イスズ	H 22 年 8 月	普通	トーハツ H 22	1
4	消防団本部		ホンダ	H 1 年 11 月	軽		
5	消防団本部					ラビット H 27 (D1)	1
6	消防団本部					ラビット H 10	1
7	消防団本部					ラビット H 17	1
8	警戒分団		日産	H 21 年 12 月	普通		
9	城東分団		日産	H 13 年 12 月	普通	シバウラ H 13	1
10	中央分団		日産	H 16 年 10 月	普通	シバウラ H 16	1
11	東分団		日産	H 19 年 10 月	普通	ラビット H 20	1
12	神戸分団		日産	H 18 年 12 月	普通	シバウラ H 18	1
13	徳和分団		日産	H 27 年 3 月	普通	トーハツ H 27	1
14	朝見分団		日産	H 28 年 3 月	普通	トーハツ H 28	1
15	機殿分団		日産	H 24 年 2 月	普通	シバウラ H 24	1
16	西黒部分団		日産	H 28 年 3 月	普通	トーハツ H 28	1
17	東黒部分団		トヨタ	H 18 年 3 月	普通	ラビット H 17	1
18	漕代分団		トヨタ	H 15 年 11 月	普通	ラビット H 15	1
19	櫛田分団		トヨタ	H 15 年 11 月	普通	ラビット H 15	1
20	伊勢寺分団伊勢寺班		日産	H 28 年 3 月	普通	トーハツ H 28	1
21	伊勢寺分団荒井班		ダイハツ	H 13 年 12 月	軽	ラビット H 1	1
22	花岡分団		トヨタ	H 15 年 2 月	普通	トーハツ H 15	1
23	山室山分団		日産	H 18 年 12 月	普通	シバウラ H 18	1
24	松尾分団丹生寺班		いすゞ	H 13 年 2 月	普通	ラビット H 13	1
25	松尾分団西野班		ダイハツ	H 12 年 3 月	軽	ラビット H 1	1
26	阿坂分団阿坂班		日産	H 16 年 10 月	普通	シバウラ H 16	1
27	阿坂分団美濃田班		ダイハツ	H 12 年 12 月	軽	シバウラ H 5	1
28	大河内分団大河内班		トヨタ	H 12 年 3 月	普通	トーハツ H 12	1
29	大河内分団笹川班		ダイハツ	H 13 年 12 月	軽	シバウラ H 2	1
30	大河内分団辻原班		三菱	H 10 年 12 月	軽	シバウラ H 8	1
31	宇気郷分団柚原班		日産	H 24 年 2 月	普通	ラビット H 24	1
32	宇気郷分団与原本		日産	H 20 年 12 月	普通	トーハツ H 20	1
33	大石分団小片野班		日産	H 28 年 3 月	普通	トーハツ H 28	1
34	大石分団大石班		三菱	H 10 年 12 月	軽	ラビット H 4	1
35	茅広江分団下茅原班		トヨタ	H 12 年 3 月	普通	シバウラ H 7	1
36	茅広江分団広瀬班		ダイハツ	H 12 年 12 月	軽	シバウラ H 3	1
37	射和分団射和班		日産	H 21 年 12 月	普通	ラビット H 21	1
38	射和分団庄班		ダイハツ	H 13 年 12 月	軽	ラビット H 10	1
39	射和分団上蛸路班		ダイハツ	H 12 年 3 月	軽	ラビット S 62	1
40	橋西分団 1 班		日産	H 29 年 3 月	普通	シバウラ H 29	1
41	橋西分団 2 班		ダイハツ	H 18 年 12 月	軽	トーハツ H 18	1
42	北分団大口班		トヨタ	H 18 年 3 月	普通	ラビット H 17	1
43	北分団鎌田班		いすゞ	H 13 年 2 月	普通	ラビット H 13	1
44	港分団		日産	H 13 年 12 月	普通	シバウラ H 13	1
45	松ヶ崎分団松崎浦班		トヨタ	H 22 年 10 月	普通	トーハツ H 22	1
46	松ヶ崎分団六軒班		ダイハツ	H 13 年 12 月	軽	トーハツ H 12	1

嬉野方面団

分団		消防車両			小型動力ポンプ	
		積載車両	年式	種別	B-3 級	台数
1	本部	スバル	H12年 3月	軽		
2	本部	ホンダ	H17年 3月	普通		
3	本部				ラビット H 9	1
4	本部班	いすゞ	H13年10月	普通	ラビット H13	1
5	嬉野宇気郷分団	いすゞ	H11年12月	普通	ラビット H11	1
6	嬉野宇気郷分団上小川班	スズキ	H27年 3月	軽	ラビット H27	1
7	中郷分団	いすゞ	H12年11月	普通	ラビット H12	1
8	豊地分団	トヨタ	H10年12月	普通	ラビット H10	1
9	中川分団	いすゞ	H11年12月	普通	ラビット H11	1
10	豊田分団	トヨタ	H10年12月	普通	ラビット H10	1
11	中原分団	いすゞ	H12年11月	普通	ラビット H12	1

三雲方面団

分団		消防車両			小型動力ポンプ	
		積載車両	年式	種別	B-3 級	台数
1	本部				ラビット H18	1
2	米ノ庄分団第1部 久米	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
3	米ノ庄分団第2部 市場庄	日産	H16年12月	普通	ラビット H16	1
4	米ノ庄分団第3部 中ノ庄	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
5	米ノ庄分団第4部 上ノ庄	ダイハツ	H18年 3月	軽	トーハツ H18	1
6	天白分団第1部 曾原	日産	H16年 2月	普通	ラビット H16	1
7	天白分団第2部 小津	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
8	天白分団第3部 中道	ダイハツ	H18年 3月	軽	トーハツ H18	1
9	鵠分団第1部 笠松	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
10	鵠分団第2部 星合	ダイハツ	H14年 1月	軽	ラビット H14	1
11	鵠分団第3部 五主	ダイハツ	H18年11月	軽	トーハツ H18	1
12	小野江分団第1部 西小野江	トヨタ	H10年 8月	普通	ラビット H10	1
13	小野江分団第1部 東小野江				ラビット H 2	1
14	小野江分団第2部 肥留	ダイハツ	H18年11月	軽	トーハツ H18	1
15	小野江分団第3部 甚目				ラビット H 2	1
16	小野江分団第3部 舞出	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1

飯南方面団

分団		区分	消防車両			小型動力ポンプ	
			積載車両	年式	種別	B-3 級	台数
1	本部		トヨタ	H17年11月	普通	シバウラ H17	1
2	本部					トーハツ H22	1
3	本部					ラビット H4	1
4	本部		ホンダ	H11年12月	軽	ラビット H4	1
5	粥見分団1班		日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
6	粥見分団2班		スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
7	粥見分団3班		ダイハツ	H22年11月	軽	トーハツ H22	1
8	粥見分団4班		日産	H21年12月	普通	ラビット H21	1
9	粥見分団5班		スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
10	粥見分団6班		ダイハツ	H22年11月	軽	トーハツ H22	1
11	柿野分団1班		ホンダ	H12年11月	軽	シバウラ H12	1
12	柿野分団2班		スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
13	柿野分団3班		ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラH21(B2)	1
14	柿野分団4班		スズキ	H27年3月	軽	ラビット H27	1
15	柿野分団5班		ダイハツ	H28年2月	軽	シバウラ H28	1
16	柿野分団6班		ダイハツ	H28年2月	軽	シバウラ H28	1
17	柿野分団7班		スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
18	柿野分団8班		ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
19	仁柿分団1班		ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラH21(B2)	1
20	仁柿分団2班		スバル	H18年12月	軽	ラビット H18	1
21	仁柿分団3班		ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラH21(B2)	1
22	向粥見分団1班		スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
23	向粥見分団3班		ダイハツ	H29年2月	軽	シバウラ H29	1
24	向粥見分団4班		スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
25	向粥見分団5班		日産	H21年12月	普通	ラビット H21	1

飯高方面団

分団		消防車両			小型動力ポンプ	
		積載車両	年式	種別	B-3 級	台数
1	本部				ラビット H18	1
2	宮前分団1班 下滝野	日産	H21年11月	普通	シバウラH21(B2)	1
3	宮前分団1班 下滝野				ラビット H11	1
4	宮前分団2班 宮前	日産	H21年11月	普通	シバウラH21(B2)	1
5	宮前分団3班 作滝	トヨタ	H17年12月	普通	トーハツ H17	1
6	宮前分団3班 赤桶	スバル	H 9年 3月	軽	ラビット H 9	1
7	川俣分団1班 田引	日産	H18年12月	普通	ラビット H18	1
8	川俣分団2班 栗野	スバル	H17年12月	軽	ラビット H17	1
9	川俣分団2班 栗野				ラビット H 5	1
10	川俣分団2班 富永	日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
11	川俣分団2班 富永				ラビット H 6	1
12	川俣分団2班 富永				ラビットH18(C1)	1
13	川俣分団3班 宮本	ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
14	川俣分団3班 宮本				ラビット H18	1
15	川俣分団3班 七日市	ダイハツ	H29年 2月	軽	シバウラ H29	1
16	森分団1班 犬飼				ラビット H10	1
17	森分団1班 深野	スバル	H18年12月	軽	ラビット H18	1
18	森分団2班 家野	日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
19	森分団2班 久谷	日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
20	森分団3班 塩ヶ瀬	スバル	H10年10月	軽	ラビット H10	1
21	波瀬分団1班 乙栗子	ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
22	波瀬分団1班 乙栗子				ラビット H 5	1
23	波瀬分団1班 加波	日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
24	波瀬分団1班 桑原	スバル	H17年12月	軽	ラビット H17	1
25	波瀬分団2班 波瀬	日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
26	波瀬分団2班 美滝	日産	H18年12月	普通	ラビット H18	1

方面団別	小型動力ポンプ付車両		その他車両		小型動力ポンプ等	
	普通車両	軽車両	普通車両	軽車両	B-3(2)	その他
松阪方面団	29	11	2	1	42	1
嬉野方面団	7	1	1	1	9	
三雲方面団	3	10			16	
飯南方面団	4	19			25	
飯高方面団	10	8			25	1
団合計	53	49	3	2	117	2

消防団員の処遇

報 酬（年額）

（単位：円）

統括団長	副統括団長	方面団長	方面副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
120,000	80,000	80,000	60,000	50,000	35,000	32,000	31,000	30,000

訓練等出場手当

1 人、1 回につき 3,500 円

水火災等出動手当

1 人、1 回につき 4,000 円

機械器具点検手当

1 人、年額 4,800 円

入校手当

1 人、1 日につき 7,000 円

ラッパ隊手当

1 人、年額 7,000 円

隊長手当、年額 3,000 円

※ 注）報酬及び諸手当は年間 2 回に分割して支給

公務災害補償等

団員が公務により死亡し、負傷し、若しくは疾病等にかかった場合には、その団員又はその者の遺族若しくは被扶養者に対し損害を補償します。

退職報償金

団員が退職した場合には、別に定める退職報償金を支給します。

被服等の支給及び貸与

活動服、アポロキャップ、ヘルメット、団員手帳、長靴 …………… 全員

T シャツ、雨衣、ケブラー手袋、盛夏服

制服、制帽 …………… 分団長以上及び女性団員

消防団の主な活動

<1>全市的に行う訓練行事等

本部幹部会議
出初式
松阪市消防団小型ポンプ操法大会
行政視察研修
安全運転研修
三重県消防学校 各課程入校

<2>各方面団で行う訓練行事等

方面団幹部会議
辞令交付式（入団式）入団者訓練 幹部研修
夏季訓練
防災訓練
水防訓練
防火パレード
年末防火広報火災予防運動
普通救命講習会
年末夜警
放水訓練
ラッパ隊訓練
消防団車庫点検
祭り等の警備

<3>女性消防団の活動

普通救命講習会
人形劇（防火・救急啓発）
防火パレード
防火チラシ配布
年末防火広報

<4>その他広報活動

消防団ホームページによる広報
（ <http://www.city.matsusaka.mie.jp/> ）
ケーブルテレビ（防火啓発）

平成 28 年度消防団活動一覽

	日	曜 日	松阪方面団 行 事	嬉野方面団 行 事	三雲方面団 行 事	飯南方面団 行 事	飯高方面団 行 事
4	3	日		方面団幹部会議			
	5	火	松阪市消防団本部幹部会議 三重県操法大会特別訓練結団式				
	7	木	方面団幹部会議				
	8	金	松阪市消防団幹部歓送迎会				
	10	日	副分団長以上訓練				
	11	月			方面団幹部会議		
	12	火				方面団幹部会議	方面団幹部会議
	14	木	三重県消防協会松阪支会理事会・総会				
	17	日	松阪市消防団新入団員辞令交付式・新入団者訓練				
						班長会議	
	25	月	松阪地区消防団協議会（松阪・多気・明和・広域消防組合）				
	28	木	松阪市消防団 団長会議				
5	1	日	第 1 回 安全運転研修（市内自動車学校）				
	8	日				機械器具操作 点検訓練	
	10	火					方面団役員会
	15	日	普通救命講習会				
	22	日					分団点検
	24	火	松阪市消防団本部幹部会議				
	26	木	方面団幹部会議		方面団幹部会議		
	28	土		方面団幹部会議		操法激励	
	29	日		春季訓練			
	31	火				方面団幹部会議	
6	1	水					応急手当 指導員研修
	2～4		第 22 回全国女性消防団員活性化北海道大会				
	2	木	PTA 心肺蘇生法講習 会（計 38 回）				方面団会議
	8	水					応急手当講習会 （計 2 回）
	9	木					操法激励
	12	日	第 2 回 安全運転研修（市内自動車学校）				
			松阪市小型ポンプ操法大会出場分団指導				
	14～			PTA 心肺蘇生法講習 会（計 10 回）			
	16	木					高見トンネル 合同訓練会議
	18	土			PTA 心肺蘇生法	心肺蘇生法	

					講習会 (計4回)	講習会 (計2回)	
	19	日	松阪市水防訓練				
	26	日			方面団訓練		
	28	火					普通救命講習
7	2	土				有間野防災 夜間訓練	
	3	日				夏季訓練	分団点検
	7	木	三重県消防協会松阪支会理事会・総会				
							応急手当講習会
	9	土	操法市長査閲				
			操法激励			柿野神社 祇園祭り警備	
	10	日					
	16	土	第25回三重県消防操法大会				
	17	日					分団点検
	24	日					分団点検
8	2	火	松阪市消防団本部幹部会議				
	3	水					分団点検
	4	木	方面団幹部会議				
	6	土		嬉野おおきん祭り 警備			
	9	火				方面団幹部会議	
	13	土				粥見神社盆踊り 夜警	川俣夏祭り警備
	14	日					森夏祭り警備
	15	月					波瀬夏祭り警備
	18	木			方面団幹部会議		方面団幹部会議
	20	土				いいないきいき 夏祭り警備	
	23	火	松阪市消防団 団長会議				
				方面団幹部会議			
	26	金					夏季訓練
	27	土					宮前フェスティ バル警備
9	1	木					夏季訓練
	3~4		三重県消防学校 指揮幹部科分団指揮課程・指導員科入校				
	9	金	松阪市消防団 団長会議				
	11	日				秋季訓練	
	15	木	第3級陸上特殊無線技士免許講習(名古屋会場)				
			方面団幹部会議				
	25	日		秋季訓練			

10	2	日	三重県青年・女性消防団員研修会				
	4	火	松阪市消防団本部幹部会議				
	6	木	方面団幹部会議				
	9	日					応急手当講習会
	11	火			方面団幹部訓練		
	13～14		松阪市消防団幹部視察研修（長野県） 三重県消防協会松阪支会研修会				
			全国消防操法大会 視察				
	15	土		防災訓練 方面団幹部会議			
	16	日					自主防災訓練
	18	火					方面団幹部会議
	19	水	方面団幹部会議				
	20	木	三重県消防殉職者慰霊祭				
	22	土			棚田まつり警備		
	23	日	松阪市消防団小型ポンプ操法大会				
	26	水					自主防災訓練
	28	金	松阪市消防団 団長会議				
	29～30		三重県消防学校 指揮幹部科現場指揮課程入校				
	30	日					自主防災訓練
11	5	土	内閣府・松阪市防災訓練				
							飯高管内 防災訓練
	6	日	火災予防運動 街頭啓発	S A T 分団訓練			火災予防運動 啓発活動
	8	火	火災予防運動 街頭啓発				
	9	水					
	10	木			防火パレード		高見トンネル 合同訓練 リハーサル
	9～15		秋季全国火災予防運動				
	13	日	車庫点検	嬉野管内防災訓練	防火パレード	仁柿住民協議会 防災訓練	自主防災訓練
							本部点検
	22	火					高見トンネル 合同防災訓練
	27	日	三重県消防協会松阪支会訓練研修会				
12	1	木	松阪市消防団本部幹部会議				
	2	金	三重県消防協会松阪支会理事会・総会				
	4	日		火災予防運動 街頭啓発	方面団訓練		
	6	火	方面団幹部会議				方面団幹部会議
	7	水			方面団幹部会議		

	8	木				方面団幹部会議	
	13	火		方面団幹部会議			
	16	金	松阪市消防団 年末意見交換会				
	22	木	年末親睦会				
	28～31		年末夜警				
	31	土				粥見神社 かがり火警備	
1	7	土				どんど火警備	
	8	日	松阪市消防出初式 リハーサル				
						どんど火警備	
	9	月祝	松阪市消防出初式				
	15	日				方面団新春一斉 放水訓練	
	22	日	松阪市防災シンポジウム				
	22	日		新春訓練	S A T 分団訓練		
2	29	日	三重県消防学校消防団員 1 日講習会				
				文化財防火デー 消防訓練			
	1～3		消防団幹部候補中央特別研修				
	2	木	松阪市消防団本部幹部会議				
	5	日	三重県消防学校消防団員 1 日講習会				
			消防団員健康診断				
						飯南飯高合同 幹部訓練	
	7	火	方面団幹部会議				方面団幹部会議
	9	木				方面団幹部会議	
	11	土祝				ハザードマップ 作成訓練	
	11～12		三重県消防学校機関員科入校				
	12	日				車庫点検	
	15	水			方面団幹部会議		
	19	日	三重県消防学校消防団員 1 日講習会				
			幹部警防訓練				
	22	水	松阪市消防団 団長会議				
	25	土		火災予防啓発 消防フェア			
	26	日					火災予防運動 啓発活動
3	1～7		春季全国火災予防運動				
	5	日	防火パレード				
	7	火	松阪市消防団本部幹部会議				
	12	日	三重県消防大会				

	14	火	方面団幹部会議				
	19	日				ハザードマップ 作成訓練	
	26	日		車庫点検 方面団幹部会議			

消防団の取組み等

1 災害への対応能力の向上

(1) 大規模地震、火災等を想定した災害図上訓練

大規模地震、火災等の災害が発生する事態を想定し、防災関係機関等との連携の強化、現場での役割分担等、団幹部の迅速かつ的確な判断能力の養成など、更なる地域防災力の強化を図ることを目的として、平成 22 年度から災害図上訓練を実施しています。

また平成 26 年度より、女性消防団員による避難所運営訓練（HUG）の指導も行っています。



図上訓練の様子

(2) 津波を想定した避難訓練

津波を想定し、住民を迅速かつ安全に避難させるため、図上訓練だけでなく、実際に避難経路を歩き、危険箇所、所要時間等の課題を検証しました。今後も各方面団、各地域にあった避難経路等を検証し、住民を迅速かつ安全に避難誘導できるよう実施しています。



避難誘導訓練の様子

(3) 消防訓練塔を活用した消火訓練

消防団員が消火活動を迅速・確実に行動できるように、技術の向上を目指し、様々な訓練を行っています。

その中で平成 21 年 2 月に「消防訓練塔」を松阪市消防・防災訓練センターに建設し、火災対応等の実戦訓練を定期的の実施しています。



消防訓練塔を活用した消火訓練の様子

(4) 大規模水害に備えた水防訓練

近年増加する豪雨や大規模水害に備え、全員が救命胴衣を着装し、実戦に即応した訓練を行い水防体制を確立することを目的に実施しています。各参加機関が連携した実働訓練を実施し、参加者全員が水防の意識を高めています。



水防訓練の様子



水防工法

2 通信体制の整備

災害現場で団員がより安全に活動できるよう、各車両に3機のトランシーバーと情報収集用ラジオを配備し、通信体制を確立しました。

災害発生時に消防団が効果的な活動を行うためには、指揮統制や情報の共有等が必要不可欠となることから、平成15年度から消防団波の携帯無線機を各分団に計画的に配備し、現在、135機の携帯無線機を活用し、消防団活動を実施しています。

また、アナログ無線の周波数割り当て計画の変更に伴い、松阪市消防団配備の無線周波数が規制されることから、平成27年12月に松阪市防災行政無線で使用している周波数帯へ乗せ換えを実施しました。このことにより火災現場での使用が制限されることから火災現場ではトランシーバーでの交信を原則としています。



無線機取扱訓練の様子



携帯無線機（団波）

3 安全管理体制の確立

（1）安全管理員と伝令員の設定

消防団活動の安全管理の徹底を図るため、災害現場で団員の活動を監視し、危険行動等の危険要因を排除する安全管理員（副分団長）と、現場指揮本部と現場活動中の分団長の無線連絡を専門に行う伝令員（部長又は班長）を各分団で任命し、災害現場等での事故防止に努めています。また、安全管理員と伝令員には、それぞれ反射ベストと腕章の装着を義務付けています。



訓練での安全管理員の様子



安全管理者研修の様子

(2) 安全運転研修の実施

平成 19 年度から自動車学校にて運転適性検査（ART）、消防車両を使用した運転技術診断、同乗者安全確認診断等の安全運転研修を行い、緊急走行時等の車両走行時における安全管理の徹底を図り、交通事故防止に努めています。



運転技術診断の様子



運転適性検査（ART）の様子

4 防火・救急啓発活動

応急手当指導員の資格を取得し、消防団員や小学校 PTA 等に普通救命講習の指導を行っています。

また、火災予防思想や、応急手当に関する正しい知識と技術を地域住民に解りやすく、幅広く普及させるため、平成 20 年から女性消防団が人形劇による防火・救急啓発活動を展開しています。



応急手当指導の様子



イベントでの人形劇の様子

5 消防団支援活動

松阪市消防団員健康管理規定により、松阪市健診センターで年1回、身体測定(身長・体重・視力・聴力)、尿検査、血液検査、血圧測定、内科健診、胸部X線撮影を実施しています。



血液検査の様子



身体測定の様子

松阪市消防団の無線機配置図

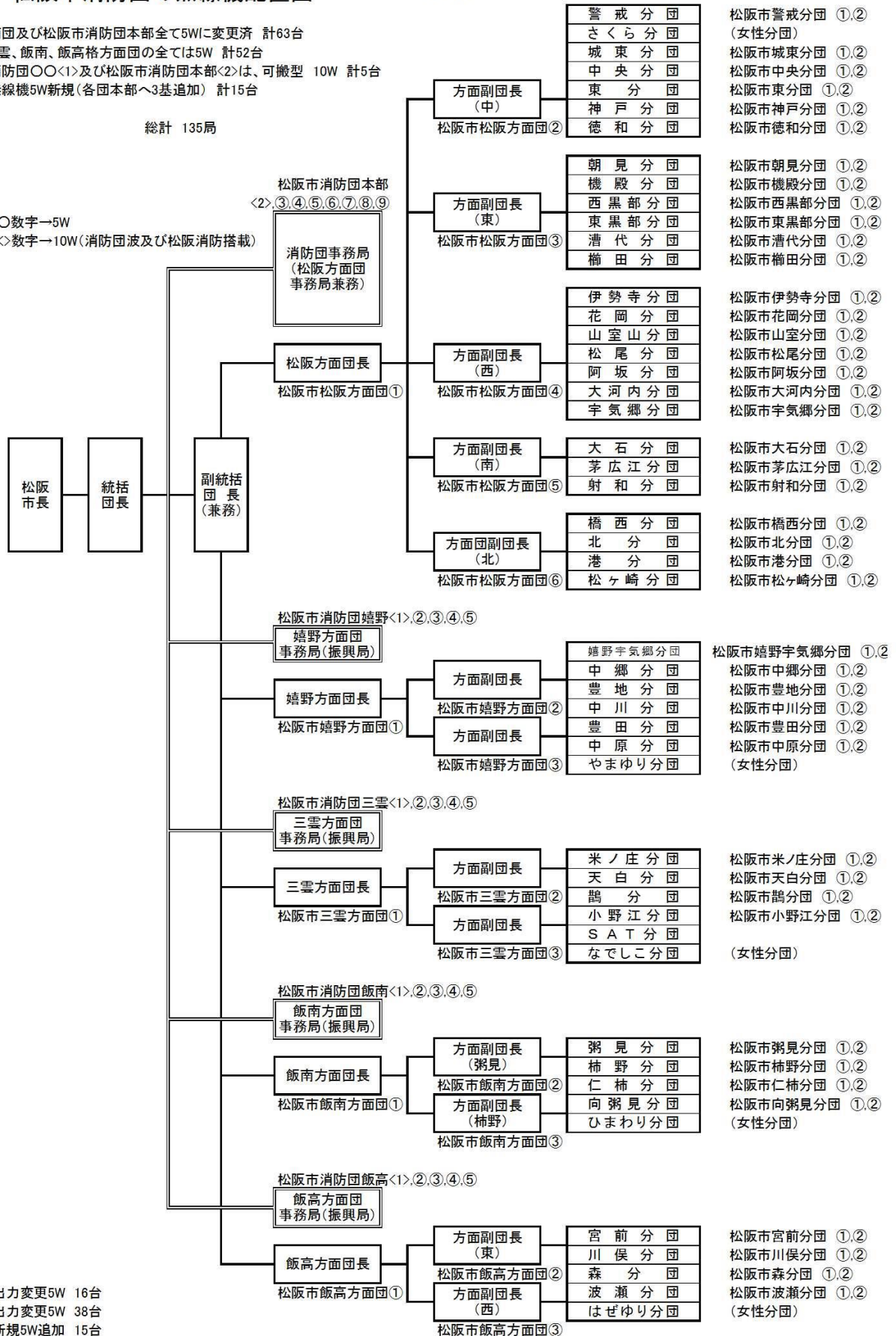
平成29年4月1日

- 1) 松阪方面団及び松阪市消防団本部全て5Wに變更済 計63台
- 2) 嬉野、三雲、飯南、飯高格方面団の全ては5W 計52台
- 3) 松阪市消防団〇〇<1>及び松阪市消防団本部<2>は、可搬型 10W 計5台
- 4) 携帯型無線機5W新規(各団本部へ3基追加) 計15台

総計 135局

呼出名称 ○数字→5W

呼出名称 <数字→10W(消防団波及び松阪消防搭載)



H20年度 出力変更5W 16台
H22年度 出力変更5W 38台
H22年度 新規5W追加 15台

このホームページは、高度先端技術（R&D）研究成果、調査データ等の提供の一環として公開されたもので、全部または一部を複製、転載、複製転載を禁じます。

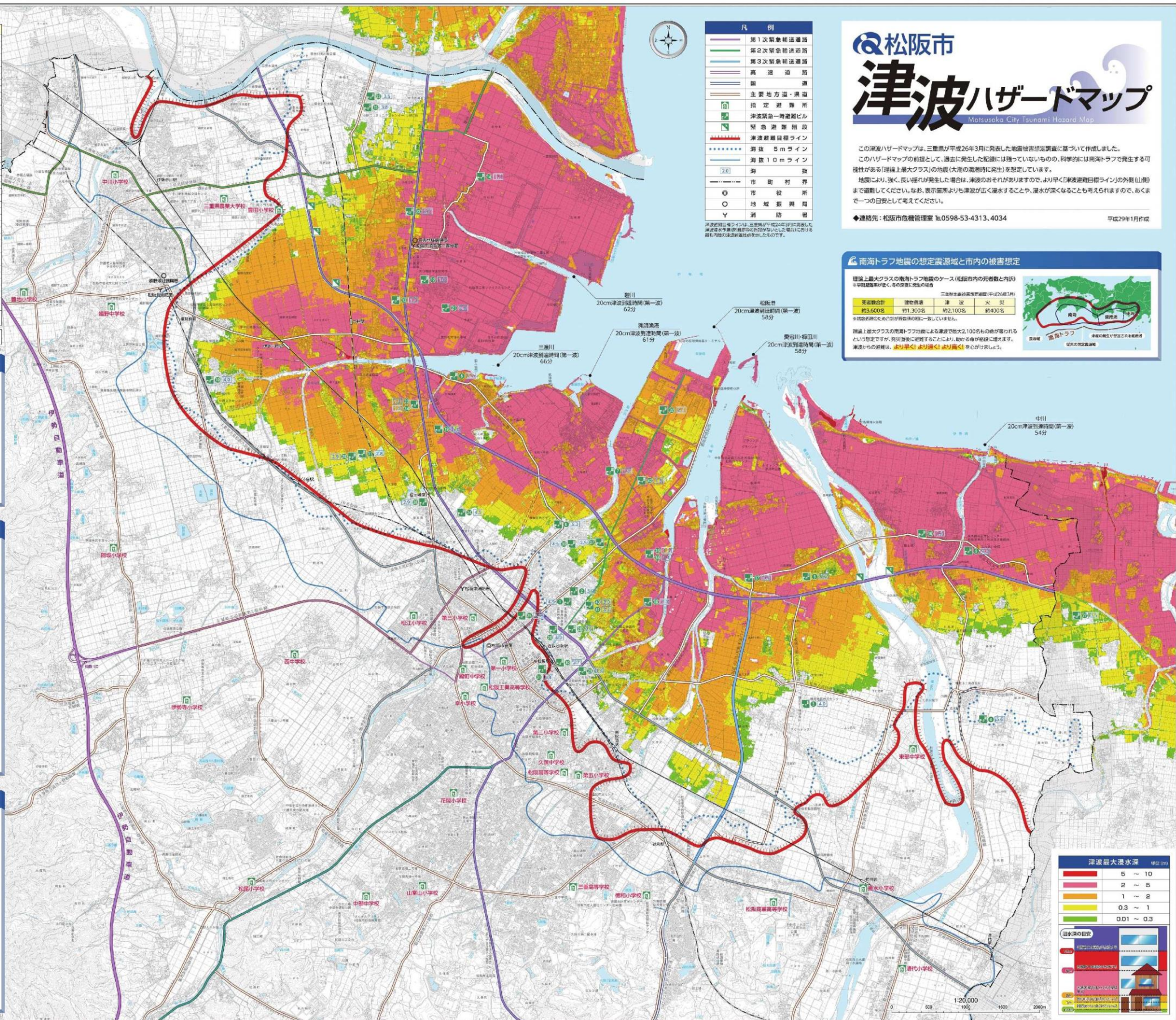
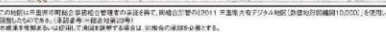
理論上最大クラスの南海トラフ地震で津波の浸水が想定される地域

「より深く」避難す！

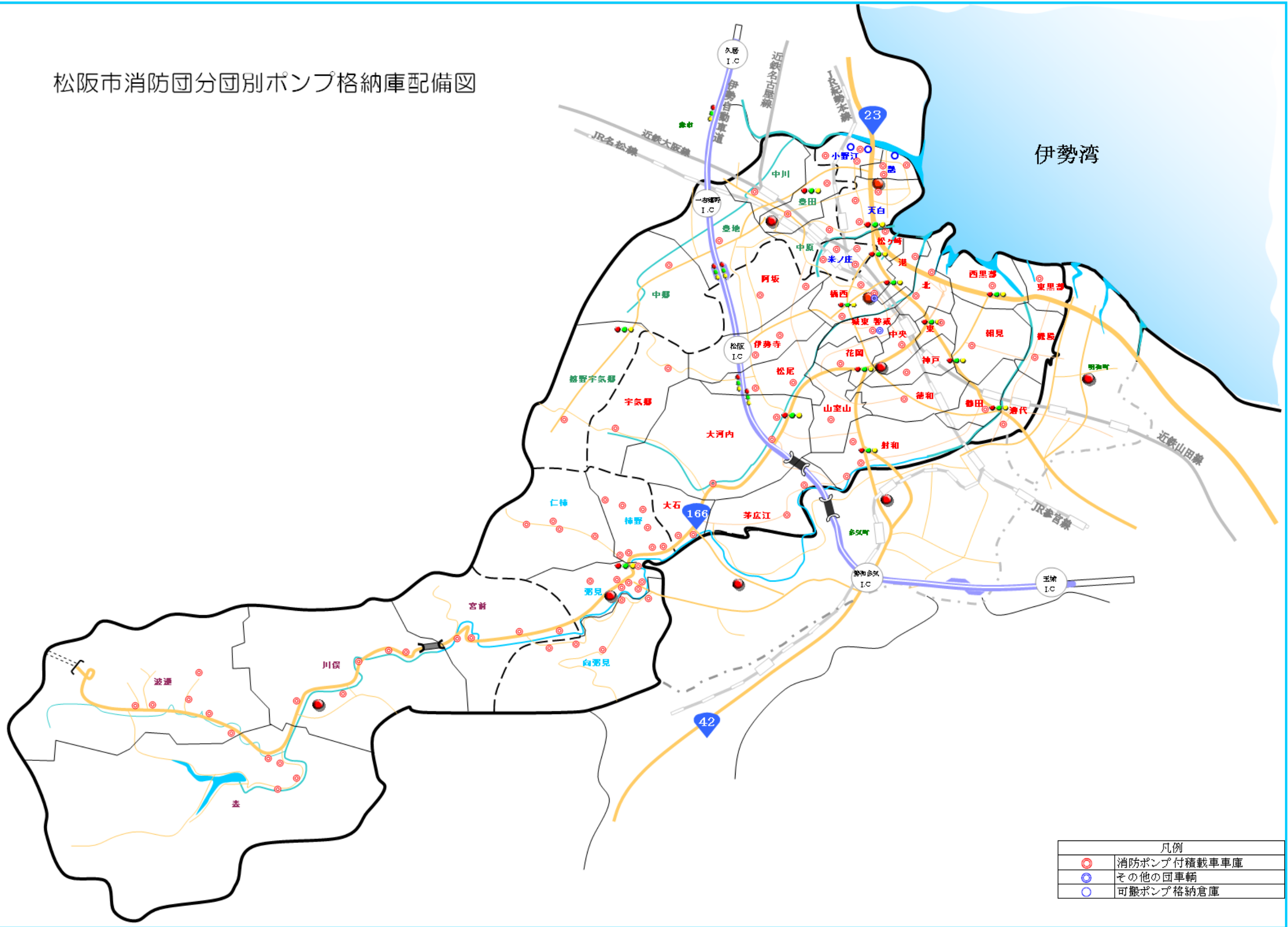
図1は、南海トラフ地震で想定される津波の高さを示したマップで、津波の高さは最大約10mに達する。この高さの津波が押し寄せると、沿岸部の低地は完全に水没し、多くの人が犠牲になる。津波の高さを示したマップを参考に、津波の高さを10m以上とする地域は、津波の高さを10m以上とする地域に指定されている。津波の高さを10m以上とする地域は、津波の高さを10m以上とする地域に指定されている。

「より高く」避難す！

津波の高さを10m以上とする地域は、津波の高さを10m以上とする地域に指定されている。津波の高さを10m以上とする地域は、津波の高さを10m以上とする地域に指定されている。



松阪市消防団分団別ポンプ格納庫配備図



凡例	
●	消防ポンプ付積載車車庫
●	その他の団車輛
○	可搬ポンプ格納倉庫



松阪市消防団

〒515-0818

三重県松阪市川井町 1001 番地 1 (松阪地区広域消防組合消防本部内)

松阪市消防団事務局 TEL 0598-25-1414 FAX 0598-21-3080